

年頭の「あいさつ」

明けましておめでとうございませう。

皆様方には、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、年を表す漢字が「災」に選ばれるなど災害の多い年でした。2月の大雪に始まり、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となった7月豪雨、記録的な猛暑、相次いだ台風被害、また、4月には島根県西部地震、6月には大阪府北部地震、9月には最大震度7を観測した北海道胆振東部地震など全国各地で大きな自然災害が発生した年でありました。

災害は突然襲ってきます。本町でも、災害に備え、現在、整備を進めている防災行政無線のデジタル化に合わせ、災害発生時に町民の皆様への迅速で的確な情報伝達が行えるよう防災システムを構築し、皆様の暮しの安心を支える体制の充実を図っていききたいと考えています。

さて、私が町政運営を任されてから、2期目の任期も残り僅かとなりました。

この4年間を振り返ってみますと、平成26年に国の主要政策として地方創生が掲げられ、人口減少対策など地方の活力を向上させる取り組みが各地で進められてきました。

西ノ島町長 升谷 健

本町におきましても、「西ノ島町人口ビジョン」と「新しい人の流れをつくる」、「資源を活かし、安定した雇用を創出する」、「結婚・出産・子育ての希望を叶える」の3つを基本目標とした「西ノ島町まち・ひと・しごと総合戦略」を策定し、この指針に基づいた施策を進めながら「夢と笑顔のあふれるまち」を目指し、全力で邁進してまいりました。

ハード面では、廃棄物処理施設など基盤施設の整備をはじめ、畜産振興施設や海藻類加工場など産業振興施設を整備し、また、学習環境を大きく向上させた小中一体型校舎、教育・文化の拠点施設としてのコミュニティ図書館「いかあ屋」も完成したところです。

ソフト面では、定住・交流人口の増加を目指す取組として、離島留学や空家バンクの立ち上げ、町外からの企業誘致などを進め、人材確保については、新規学卒者雇用に対する助成やUIターン者への就業者支援策などを新たに創設しました。

また、出産や子育てに係る支援策の新設・拡充をはじめ、学力の向上を目指した町営塾の新設、学校と地域をつなぎ、教育現場を支援する学校支援コーディネーターの配置なども進めてまいりました。

一昨年4月には有人国境離島法が施行され、我々島民の悲願であった隠岐航路運賃の低廉化が実現し、合わせて雇用拡充や交流人口の拡大など、地域経済の活性化に大いに期待が膨らんでいる中、老朽化や多くの問題を抱える役場庁舎の移転新築も動きだしています。

様々な施策を進めながらの、あつという間の4年間ではありましたが、町民の皆様のご協力により、様々な取り組みが徐々に形となってきていると感じています。

今後も、町民の皆様や町職員と一体となり、働く場の創造、暮らす楽しみの多様化、交流人口・定住者の拡大、増加といった、良い循環が生まれるよう取り組んでまいりますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新しい年が、町民の皆様にとりまして、素晴らしい年でありますようにお祈り申し上げます、年頭のごあいさつといたします。